

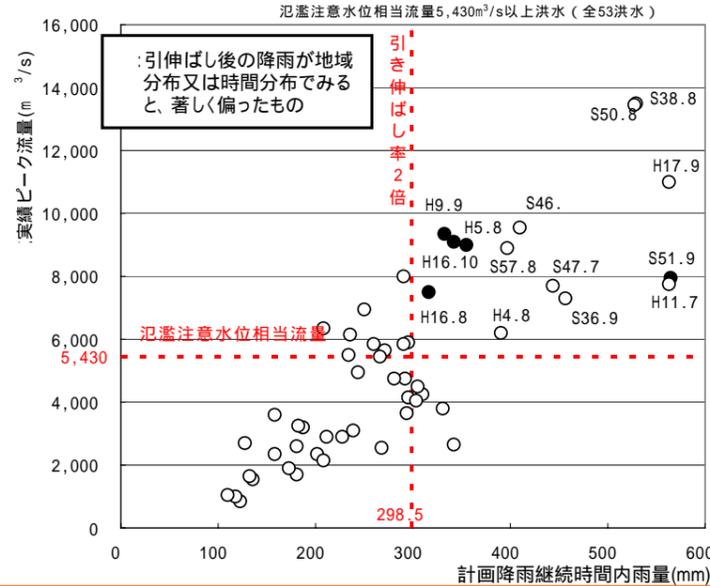
計画対象洪水の選定

・雨量データによる確率からの検討を行う際の対象洪水は、流域の地形特性、降雨特性等を勘案し、計画対象に相応しいものとして

- ・大きな実績流量の洪水
- ・計画規模の降雨量まで引き伸ばした場合に、著しい引き伸ばし率とならないもの

としている。例えば、ここで示す水系の事例では、基準地点で実績流量が氾濫注意水位相当流量(5,430m³/s)以上で、降雨量の引き伸ばし率が、2倍未満となるものを選定

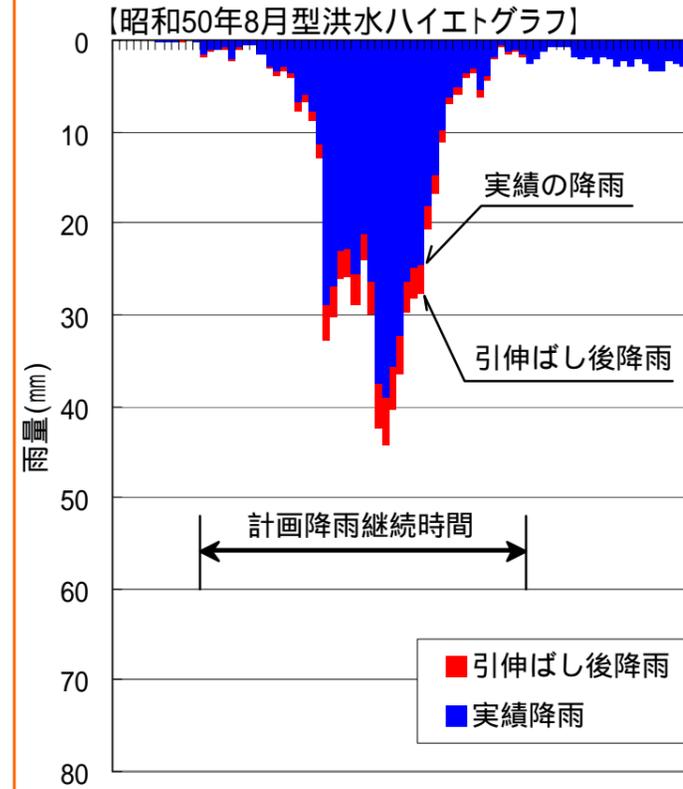
・対象洪水の選定にあたっては、実績洪水の地域分布と時間分布を確認し、偏った降雨を選定しないように、様々な洪水パターンが含まれるようにする。例えば、地域分布として、上流型、中流型、下流型等、時間分布として、一山型、二山型、中央集中型、後方集中型、フラット型等の洪水パターンを検討し、様々なパターンが含まれるよう、対象洪水を選定



No.	年月日	実績ピーク流量 (m ³ /s)	計画降雨継続時間内雨量 (mm/計画降雨継続時間)	
			実績	計画
1	S.36. 9.16	7,285	456.74	597
2	S.38. 8. 9	13,514	529.62	
3	S.46. 8.30	9,534	410.11	
4	S.47. 7.24	7,680	442.75	
5	S.50. 8.17	13,461	527.69	
6	S.51. 9.13	7,930	564.04	
7	S.57. 8.27	8,899	396.37	
8	H. 4. 8.18	6,218	390.44	
9	H. 5. 8.10	8,997	355.56	
10	H. 9. 9.16	9,340	331.92	
11	H.11. 7.27	7,748	563.34	
12	H.16. 8.30	7,485	316.51	
13	H.16.10.20	9,080	341.74	
14	H.17. 9. 6	10,997	562.18	

計画規模洪水の算出

・対象洪水について、計画降雨継続時間内の雨量を計画規模まで引き伸ばし、流出計算を実施し、基本高水群を算定



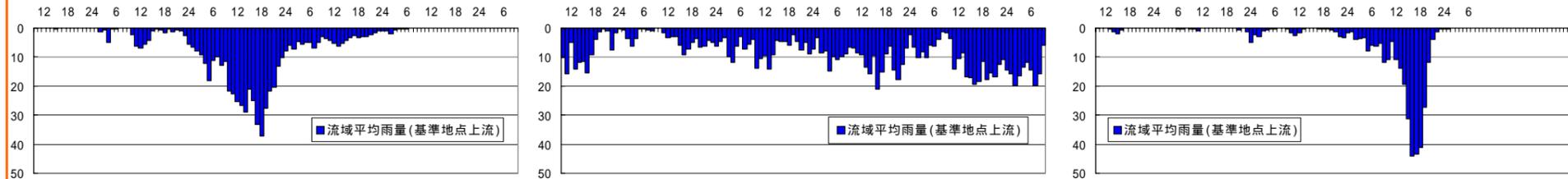
No.	洪水名	基準地点上流計画降雨継続時間雨量 (mm)	計画雨量 1/100	引伸ばし率	基準地点計算ピーク流量 (m ³ /s)
1	S.36. 9.16	456.74	597mm	1.307	8,443
2	S.38. 8. 9	529.62		1.127	14,307
3	S.46. 8.30	410.11		1.456	12,991
4	S.47. 7.24	442.75		1.348	10,072
5	S.50. 8.17	527.69		1.131	16,151
6	S.51. 9.13	564.04		1.058	6,839
7	S.57. 8.27	396.37		1.506	17,216
8	H. 4. 8.18	390.44		1.529	10,966
9	H. 5. 8.10	355.56		1.679	17,679
10	H. 9. 9.16	331.92		1.799	24,123
11	H.11. 7.27	563.34		1.060	8,365
12	H.16. 8.30	316.51		1.886	19,886
13	H.16.10.20	341.74		1.747	23,212
14	H.17. 9. 6	562.18		1.062	12,351
最大値		564.04	-	1.886	24,123
最小値		316.51	-	1.058	6,839

：引伸ばし後の降雨が地域分布又は時間分布でみると、著しく偏ったもの

対象洪水の地域分布・時間分布

・地域分布と時間分布を確認し、代表洪水が包含されるよう対象洪水を選定

【代表的な時間分布】

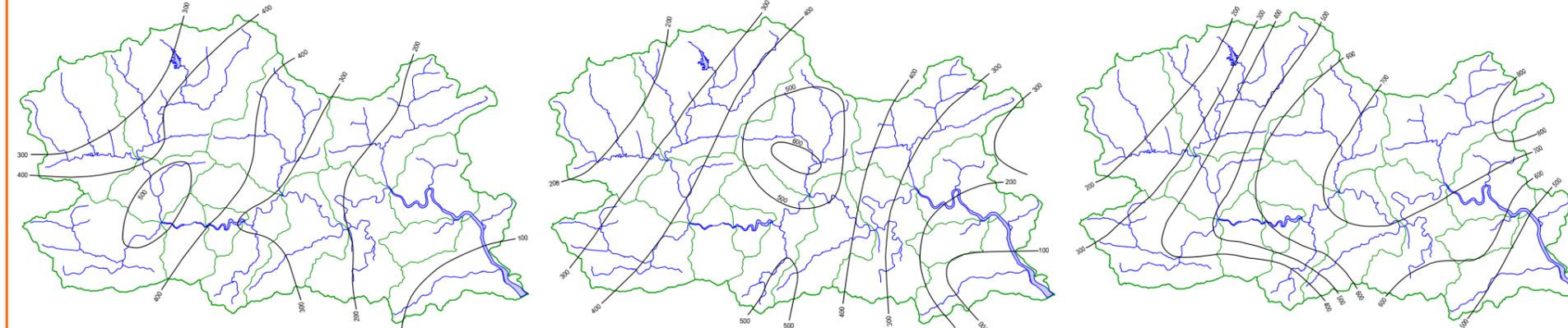


S38.8洪水 (中央集中型)

S51.9洪水 (フラット型)

H9.9洪水 (後方集中型)

【代表的な地域分布】



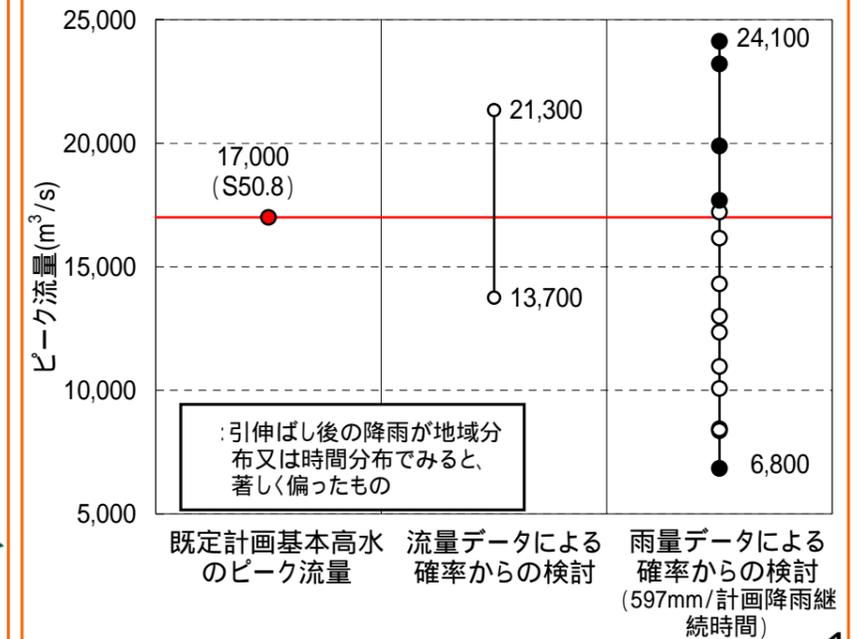
H16.8洪水 (中上流型)

H5.8洪水 (中流型)

S50.8洪水 (下流型)

基本高水のピーク流量の設定

・既定計画の基本高水のピーク流量、流量データによる確率からの検討、時間雨量データによる確率からの検討等を総合的に判断して、基本高水のピーク流量を設定



：引伸ばし後の降雨が地域分布又は時間分布でみると、著しく偏ったもの

既定計画基本高水のピーク流量 流量データによる確率からの検討 雨量データによる確率からの検討 (597mm/計画降雨継続時間)